

東日本における群集墳の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学人文科学研究所 公開日: 2013-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大塚, 初重, 小林, 三郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/14445

《重点共同研究経過報告》

東日本における群集墳の研究

大塚 初重, 小林 三郎

A study of Collective Tombs in Eastern part of Japan

Hatsushige OHTSUKA,
Saburo KOBAYASHI

本課題による研究は、1990年度から開始した。研究対象として、山形県東置賜郡川西町に所在する下小松古墳群を選定し、明治大学と川西町教育委員会との共同調査という形をとって発掘調査を実施している。発掘調査は、下小松古墳群第98号墳を具体的な対象として実施した。第1次調査として下小松古墳群第98号墳の墳丘規模確認のための調査を実施して、すでに概要は報告してある（人文科学研究年報・第32号、1990年度）。本稿では、その第2次調査（1991年度）について、その概要を報告する。

下小松第98号（第2次調査概要）

本年度は、主体部と墳頂部の盛土、後円部北側からくびれ部にかけての溝の発掘調査を行った。

主体部は、後円部やや南よりで検出され、主軸方向はN-77°-Wである。土壌の規模は、全長6.48m、幅1.75m、深さ2.05m、底部で標高271.27mをはかる。覆土中からは大きな炭化材が数枚検出されているが、このうち南壁際の下層で検出されたものは、直線状に3枚以上が南壁を造るよう配されている。土壌上場では南壁が東側でやや不整に拡張しており、南壁東隅には段状の部分がある。その内側と土壌南西隅を結ぶライン上にこの炭化材は土壌上場の歪みを矯正するように位置している。また、西壁際の床面には約10センチほどの段が検出されている。覆土の堆積状況は中央部がくぼんでおり、木棺が腐り潰れた際に落ち込んだものと考えられる。遺物は、床面上から鉄鏝片、靱、不明革製品、不明木製品（弓か？）が出土している。このうち靱は木製黒漆塗り、土圧で潰れて原形を復原するのも困難な状態であっ

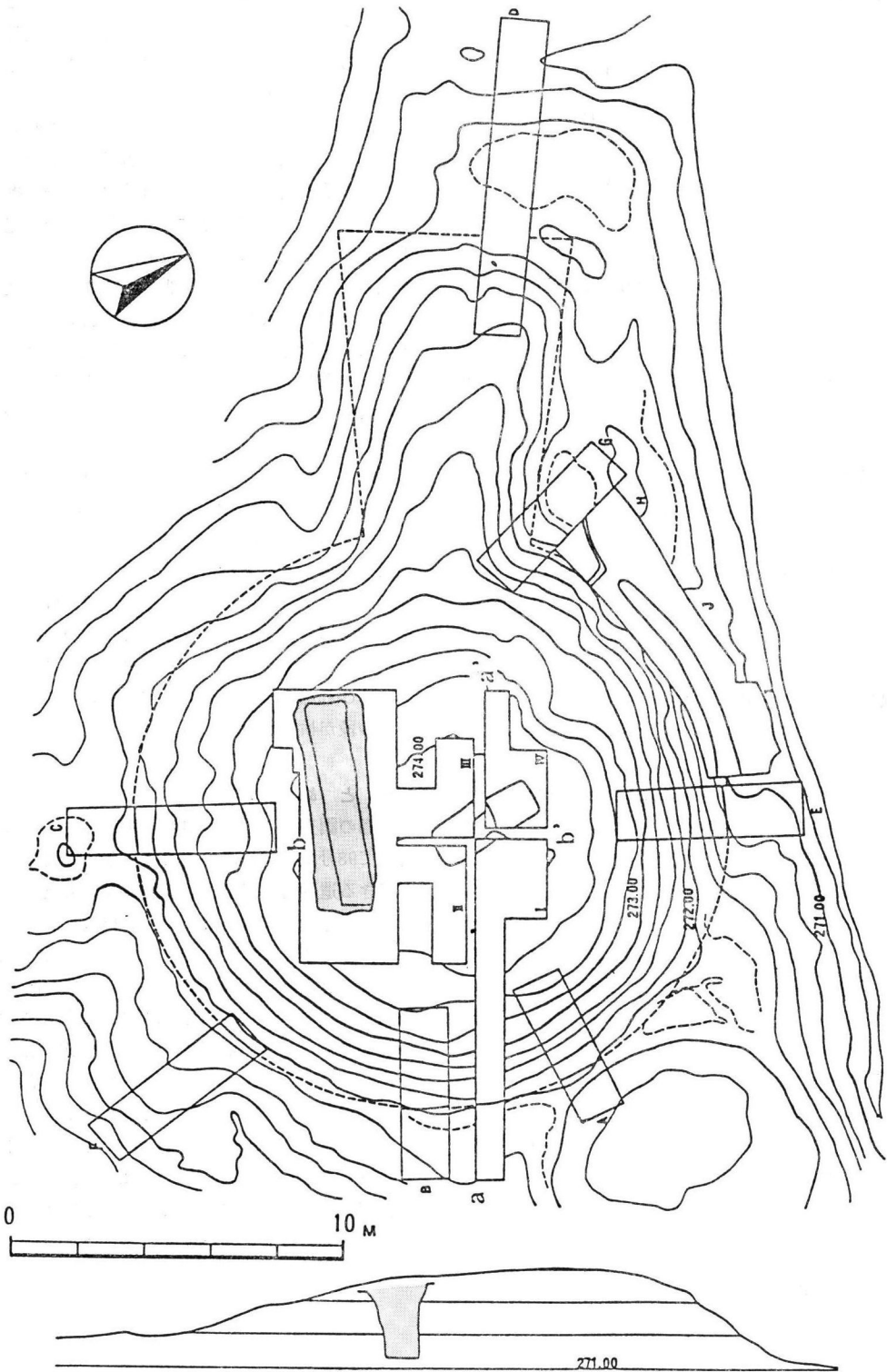
たが、東北地方では会津大塚山古墳について2例目の出土である。また、土壌上部の落ち込みから土器片が出土しているが、須恵器高杯3個体、内黒の土師器杯2個体以上、土師器甕1片である。

主体部の確認作業と同時に後円部墳丘の断ち割り調査が行われ、墳丘の構築状況の一部が明らかになった。それは、本墳の後円部東側では周縁付近を一度掘削し、まず墳丘全体に軽く盛土をしてなだらかな丘を造り、次に溝内側の墳丘縁部に堤状に盛土を行い、その後中心部側を盛っている。また、主体部の土壌はある程度土が盛られてから掘り込まれ、埋葬後再び盛土が行われている。そして、主体部の掘られている面には炭化材が特に東側に多く分布している。こうした古墳の構築方法が、なぜ本墳で行われたかは現状では不明であり、今後の調査の成果に期待する。

後円部北側からくびれ部にかけての溝の調査は、くびれ部からやや東側に高まりが認められ、同じような高まりが61号墳でも検出されており、そこから多量の土器片が出土していることから調査を行った。その結果、遺物は出土しなかったが、昨年のかくびれ部（Gトレンチ）の調査でも溝が浅くなりなくなっているのが確認されていたが、今回も溝が切れている状況が確認されている。さらにくびれ部のすぐ東側に、粘土を盛った方形の造り出し状の段が検出されている。

まとめ

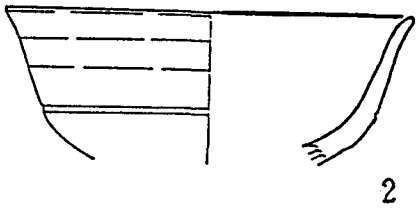
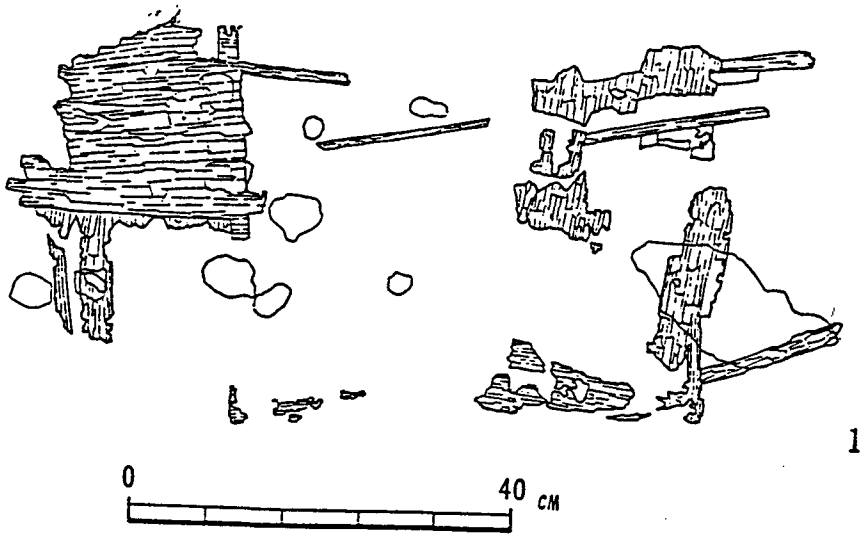
今回の調査により98号墳の主体部が明らかになった。そして98号墳の年代については、今回時期を考えることのできる遺物として須恵器と土師器が出土している。須恵器は陶邑のTK10あるいはTK45に並行すると考えられる。土師器はその形状から置賜地方の三軒屋式に当てはまると考えられ、6世紀中頃から後半と推定される。当初その立地や形状からさらに古い時期の古墳ではないかと期待されたが、本古墳は天神森古墳に先行する古墳ではなかったため、下小松古墳群の他の古墳にその可能性を求めたい。しかし、主体部の規模は古墳の規模に対し非常に大きく、山形県内では最大であり、また有機質で腐敗しやすく出土例の少ない靱が出土し、さらに墳丘の構築方法の一部を知り得たことなどが今回の調査の大きな成果であったと思われる。



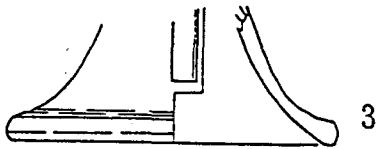
第1図 下小松第98号墳トレンチ配置図



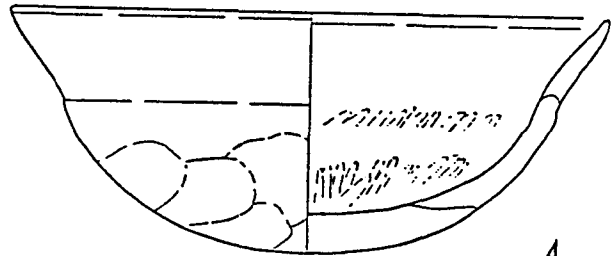
第2図 下小松第98号墳主体部



2



3



4

第3図 下小松第98号墳出土遺物
 (1. 靱, 2・3・須恵器, 4. 土師器)